

副会長に選任されて

副会長 山本 耕平



1985年の設立総会を含めると第29回目となる総会が開催されました。日本トイレ協会は来年度で30周年を迎えることとなります。日本トイレ協会は、新橋の「都市小屋・サロン集」で始まった「トイレットピアの会」というトイレ問題の勉強会が発展してできた組織で、86年1月に静岡県伊東市で初の「全国トイレシンポジウム」を開催しました。以来、活動は連続としてつづいており、日本のみならず世界のトイレ環境の改善に大きな足跡を残しました。私は「トイレットピアの会」の世話人として日本トイレ協会の設立に関わり、約10年間事務局長を務めておりました。折しも日本はバブル景気に沸いた時代で、日の当たらなかった公共トイレや商業施設のトイレにお金をかけることができたために、一気にトイレ事情は好転しました。3Kとか4Kという言葉が人口に膾炙していますが、これはもともと「トイレットピアの会」で当時の甚だ酷い公共トイレ事情を語るときに生まれた言葉です。すなわち「汚い、暗い、くさい」、これに「壊れている」を付け加えて4Kと呼んだことが始まりです。今では外国人から日本のトイレは賞賛的になっていますが、まさに隔世の感があります。

日本トイレ協会では93年に世界初のトイレの国際会議「神戸国際トイレシンポジウム」を開催しました。その後、日仏トイレフォーラム、香港の自治体政府が開催したアジア太平洋トイレシンポジウム、富山、北九州でも国際シンポジウムを開催しています。シンガポールを本拠に「WTO」（世界トイレ協会）という組織がありますが、この組織も北九州での国際トイレシンポジウムの参加者の間で生まれたものです（残念ながら方向性の違いで日本トイレ協会はほとんどコミットしていませんが）。こうした活動をとおして交流が生まれた台湾のトイレ協会とは深い交流を続けています。

30年近い年月が経過したのですから、設立当初から参画しているメンバーも当然30歳も年をとったわけです。日本トイレ協会が今後も社会から必要とされ、活動を継続していくためには若い世代の参加が必要です。幸い今年の総会では現役の大学生が会員として出席してくれました。30周年を目前にもっとも大きな課題は若い世代の会員を増やすことでしょう。そのためには活動の幅をもっと広げていくことが必要です。海外に飛躍することも考えられるでしょう。会員の皆さんには、ぜひ活動のアイデアを寄せていただき、日本トイレ協会を盛り上げていただきたいと思います。私は今年度から副会長の一人に任せられ、30周年に向けた記念事業の企画を申しつけられております。会員諸氏のご協力と参加を心からお願い申し上げる次第です。どうぞよろしくお願ひいたします。

(株)ダイナックス都市環境研究所 代表取締役社長)

▼ 日本トイレ協会の2014年度通常総会が5月24日(土)㈱レンタルのニッケン地下1階会議室(東京都千代田区永田町2-14-2山王グランドビル)で開催されました。

▼ 総会経過<13時30分~14時40分>

司会の赤堀理事の開会挨拶の後、事務局より定足数(会員数129名中77名出席<含む委任状>)に達し、本総会が会則第24条に則り成立したことが報告されました。

議長に高橋志保彦会長が選出され、議事録署名人として太田憲人氏(東京)、船橋寿道氏(広島)を選任し、下記議題の審議が行われました。各議案とも満場一致で承認され、14時40分に終了いたしました。

記

第1号議案	2013年度活動報告
第2号議案	2013年度収支報告及び監査報告
第3号議案	2014年度活動予定(案)
第4号議案	2014年度収支予算(案)
第5号議案	役員の補充(案)

役員の補充では、去る4月7日開催された2014年度第1回理事会において選任承認された山本耕平副会長の他、体制強化のため次の2名理事を選任承認されました。

軍記 伸一氏(NEXCO 中日本開発㈱統括本部長)

中野 洋一氏(日本カルミック㈱執行役員企画開発室 室長)

また新たに法人B会員となられた「アルム㈱」(東京都)の田野倉専務、「㈱井戸屋」(茅ヶ崎市)の綾社長からご挨拶を頂きました。

〈会場の様子〉



赤堀理事の司会挨拶

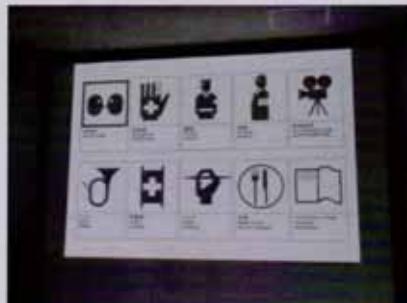


高橋会長の活動報告



▼ 講演会(15時 ~ 16時40分)

恒例の総会終了後の講演会ではデザインディレクターの道吉 剛氏が「トイレのピクトグラム(シンボル)誕生とデザインから語る東京オリンピック1964年」と題して豊富で貴重な資料をプロジェクターを駆使しての楽しい講演をして頂きました。



▼ 交流会(17時～19時)

新任の山本副会長の司会で始められ、この度世界遺産に登録された「富士山型」乾杯の披露があり、本日の交流会に最も遠いところから参加された広島市の船橋寿道氏が乾杯の音頭をとられました。また席上、新年度以降に入会された「勇正一郎氏」(尼崎市)、「大浦綾子氏」(東京都)、学生会員の「福代梨里花氏」(東京都)の紹介とご挨拶を頂戴しました。会は非常に和やかな雰囲気のなかで進められ、参加者一同が時間を忘れる楽しさのうちに終りました。



勇 正一郎氏



大浦 綾子氏



福代梨里花氏



山本副会長の富士山型「乾杯」



会場スナップ

日本トイレ協会の理事をお引き受けに当たって

新任理事 中野 洋一



私が日本トイレ協会とお付き合いをさせて頂くようになってから随分年月が経ちました。それは、当時日本トイレ協会の前身とも言えるトイレットピアの会に参加するように弊社の社長から指示されたことがキッカケでした。彼は初代日本トイレ協会会长の教え子であり、弊社がこの業界で仕事をしていく上で最も重要と言える恩師からのお誘いと思えますが、当の教え子は私に『帰りがけに新橋に寄って話し聞いてから帰れ』と、まるで落語か講談の催しでもあるかのような言われ方だったことを今でも覚えています。お陰さまでたくさんの方々とお知り合いになれ、現在でもお仕事のパートナーとしてお付き合いさせていただいております。

私はトイレ用品の開発技術者です。お客様へ訪問し、商品の説明をし、作業をし、お客様から評価をお伺いして、考え、そして、レンタル用の製品にする。これが私の仕事です。レンタルとは製品を買っていただくのではなく、製品がもたらす効果とそれを維持するサービスが一緒になってはじめて『商品』と言えます。

私にとってトイレとは、製品とサービスのバランスを常に良好に保つための技術が試される場であり、まさに戦場です。満足できる結果が得られたことは一度も無く、褒められたことは記憶にありません。懇意にしていただいているお客様や一緒に仕事をしていただいているパートナー様から『どこ行ってもカルミック付いてるね』と言われることがあります。大変嬉しいお言葉ですがそれは誤解です。事実、私はそんなにたくさん作った覚えはございません。きっと、当社の製品が付いている所ばかりを選んで用を足しに行かれている可能性が高いのだと思います。

こんな私ですが、このたび、理事にとお薦めいただいたことを厳粛に受け止めております。お薦めいただいた折には、将来の日本トイレ協会のあり方や日本のトイレの発展のためにもっとフレッシュな人材が必要、適任ではと申し上げました。私は冒頭にも書かせていただきましたが、決してフレッシュとは言えません。私が理事としてどのようなお役に立てるかは分かりませんが、諸先輩方のご鞭撻を賜りながらチャレンジさせていただきたいと思いますので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。(日本カルミック(株) 執行役員企画開発室 室長)



私は、昭和59年に「旧日本道路公団」に入社し、高速道路のサービスエリア（以下「休憩施設」）などのトイレの建設・管理に携わってきました。従前から休憩施設のトイレの床は、なぜ水洗い（以下「湿式清掃」）をしているのか疑問を持っていて、滑るし、臭気（水くさい？）も気になっていたので、ホテルやデパートのようにモップで清掃（以下「乾式清掃」）すればいいのに思っていました。社内の社員に休憩施設のトイレはどうして乾式清掃ができないのか聞いたところ、「屋外のトイレだから雨天時は管理が難しい。汚れても水洗いできるから床は磁器タイル仕上げにしている」とのことです。それなら発想を変えて、屋内のトイレにしようと思い立ったのが平成18年です。このころは分割民営化直後（平成17年10月）で、高速道路をご利用するお客さまに、「民営化して変わったね」、「休憩施設に寄るのが楽しみ」と言っていただくよう、いつもそのことを考えていました。



そこで、NEXCO中日本横浜支社（現在は東京支社）勤務時代に「トイレワーキング」を立ち上げ、日本トイレ協会の高橋会長にメンバーに加わっていただき、お客さまの声を反映した大胆な発想でトイレ改革に取り組みました。

まず、屋内のトイレとなるよう「ロビー空間」を設け、高速道路の情報提供や待ち合わせの場とし、さらに、床も磁器タイル張りからゴムタイルへの変更や洋風便器比率も大幅に増やしました。

（洋風便器には温水洗浄機能を設け、便座クリーナーも合わせて設置したことは言うまでもありません。）

社内では特に、床のゴムタイル張りに対し「雨天時に滑るのでは」「耐久性が悪いのでは」と懸念されましたが、乾式清掃の対応が不可となった場合には湿式清掃方式に戻せるような工夫もしましたし、メンテナンスをされる方にも何度も清掃方式の切り替えについて説明しました。最初に取り組んだ東名高速道路の日本平PA（平成19年改修）では、お客さまから「また立ち寄りたい」「イメージが変わった」とお褒めの言葉をいただいた時には、新しいルールを作つて良かったことを思い出します。

今では、トイレを改修するときには乾式清掃方式を導入していますし、一昨年開通した新東名高速道路では、お客さまの導線や快適な空間作りにも配慮したトイレとして、お客さまに喜んでいただいております。

これからは、清掃や補修などのメンテナンス性の向上、またハンディをもつた方や家族連れのお客さまにもご利用しやすいトイレ計画に力を入れ、更なる改善を重ねていきたいと思っています。微力ではありますが、より一層お客様やトイレに従事される方々に喜んでいただけるよう努力していきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。（NEXCO中日本開発株 統括本部長）

生命の源「水」を通じて社会貢献を

株式会社 井戸屋 純 久



新しく日本トイレ協会の会員となります、株式会社井戸屋です。よろしくお願ひいたします。本社は神奈川県茅ヶ崎市にあり、社名の通り井戸掘りをメインとした会社です。

地下の自然水を通して社会にお役立ちする会社を目指しています。井戸屋を始めたきっかけは、阪神大震災でした。あの時、水さえあれば助けられた命があったのではと思い、震災の翌年平成8年9月に設立しました。

今まで手掛けた井戸工事は、1600件以上、湘南地区での井戸施工件数はNo1です。

あの東日本大震災発生の3ヶ月後、津波被害にあわれた方のため、宮城県石巻市北上町の高台に一生住める復興住宅を建てるプロジェクトに参加し、深さ100mの井戸を掘り、被災者の方々から感謝の言葉をいただきました。微力ですが災害復興に貢献させていただき、本当に良かったと思っております。

井戸工事の経験もないところから始めた井戸屋ですが、これからも井戸の施工を通して、広く社会に貢献させていただき、いつか日本に起きるといわれている大災害が起きた時にも、お役にたてれば、なにより幸いと思っております。

被災された方とお話をするなかで、震災直後の仮設のトイレが余りに汚くて不潔だということで、トイレに行きたくない、又トイレに行く回数を少なくする為、食事をとらない、水を飲まないなどにより、ストレスが重なり病気になったり、最悪死に至った例があったということを聞き、被災者の方に清潔なトイレを御提案できないかを考え、平成25年より災害用水洗トイレシステムの開発に取り組みました。

そして実用化した災害用水洗トイレを、平成26年3月神奈川県茅ヶ崎市役所に寄贈し、現在、市役所前の公園に設置させていただきました。

さらにそれ以後も開発を進め、現在“手動式のポンプで水を汲み上げる”をメインとした組立式の水洗トイレシステムを完成させました。

災害時のトイレ事情は、深刻な問題だと思っております。

これからも、日本トイレ協会様と情報交換を密に行うことで、災害時のトイレ事情がより良い形になるよう貢献できればと思っております。どうぞ宜しくお願ひ致します。(代表取締役社長)



日本トイレ協会とともに社会的課題の改善へ

アルム株式会社 田野倉 弘幸

この度、日本トイレ協会に入会させていただきましたアルム株式会社の田野倉でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。弊社は平成2年3月に設立された東京都港区に本社を置く総合ビル管理・緑地管理を行う会社で、主に東京近郊を中心営業しています。設立当初はビルメンテナンスを専門にしていましたが、その後、事業の拡大発展に伴い、現在では建物総合管理のほか、公園緑地管理、芝生管理、樹木保護などを通じて、広く人々の安全・安心な住環境作りのお手伝いをさせていただいております。

建物・施設の管理については、清掃管理、設備管理、環境衛生管理、警備業務、スポーツ施設管理、公園緑地管理、樹木保護管理といった様々な管理業務があり、私たちもそれらに必要な技術とノウハウを持ってお客様の多様なニーズにお応えしてまいりました。

昨今、『エコロジー』とか『環境』という言葉がクローズアップされ、人が快適に暮らし、仕事をし、学び、遊び、くつろぐためのあらゆる空間が、どれだけ清潔で安全・安心であるかが、ビルやマンション、公共施設、福祉施設、商業施設などに求められています。弊社の事業は直接的にはこうした建物・施設の清掃管理、設備管理を通じて、当協会の目的である「快適なトイレ環境の創造」、「トイレに関する社会的課題の改善」という事業活動につながっているものと思います。実際、弊社の最初の仕事は、学校、公園のトイレ清掃からスタートしており、現在、あきる野市の観光トイレは弊社が受け持ち、観光客の利便性向上と河川の環境保全の一端を担っています。

こうした仕事の中で、利用者の皆様から直接的な防犯、災害時、利便性に関する要望や苦情あるいはご提案をいただき、また従業員からも清掃、維持管理に関する改善提案が出てきますので、トイレ協会の活動を通じて諸施設の設計開発、設備製造、施工の関係会員の皆様と情報交換できればと思っています。

日本がトイレ先進国であるとされているのも、これまでの当協会の活動と諸先輩企業の皆様方の努力が受け入れられてきた賜物であり、これまでのご活動に敬意を表します。これからは、会員として皆様とともに社会的課題の改善に努めたく思いますので、ご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。(代表取締役社長)



東名高速道路 愛鷹PA トイレ改修工事の概要

中日本高速道路㈱ 富士保全センター 伊藤 佑治

【はじめに】

本稿では、東名高速道路 愛鷹PA上下線トイレ改修工事の紹介を目的として、トイレ改修時に整理した問題点、問題解決に向けて実施した内容、リニューアルオープン後に見出した課題を整理する。私は、NEXCO中日本入社1年目に、上司と共にトイレ改修工事の設計を、入社2年目に工事を担当した。本稿の内容はトイレのプロである皆様からすれば未熟な内容に映るかもしれない。しかし、2年間現場に向き合い検討し続けた内容が、少しでも今後のトイレ文化の発展に寄与することができれば幸いである。

【高速道路休憩施設のトイレの位置付け】

高速道路の休憩施設（SA・PA）には、トイレが設置されており、お客様にとって重要な空間のひとつである。一旦高速道路に入ると、休憩施設以外にはトイレは存在せず、トイレの整備状況がお客様の行動の制約条件となることも少なくない。

そのため、NEXCO中日本グループでは、経営基本方針である快適な高速道路空間をお客さまにご提供し続けるために、日々の清掃はもちろんのこと、定期的な点検、設備等の補修、点検結果を踏まえた改修工事などを実施している。とりわけ、トイレ改修工事は、必要ブース数の検討や既設トイレの問題点を踏まえた改善策を反映させることができるために、トイレの快適性を大幅に向かせる重要な機会となる。

【改修工事の概略】

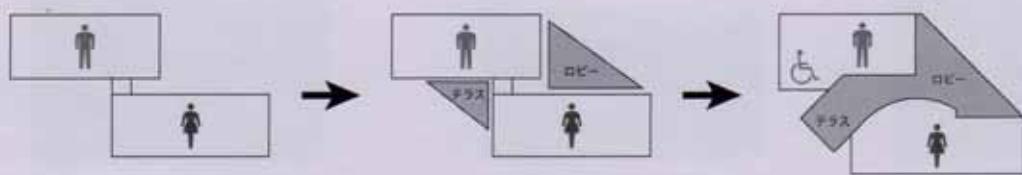
東名高速道路 愛鷹PA上下線トイレは、平成25年4月1日にリニューアルオープンした。上り線は愛鷹山、下り線は駿河湾の眺望を活かした計画とし（図1、2）、より快適なトイレを目指して、ブース数の見直し、ロビーを整備（屋内化）し（図3）、更衣室、エアータオル、温水手洗い等を新たに設置した。



図1 愛鷹PA上下線の立地



図2 改修後の外観写真



既設トイレの平面構成を活かしてロビーと眺望テラスを整備し、2つの空間をつなげた。



既設の壁を解体して新設の壁と既設屋根をつなげることでトイレを屋内化した。

図3 改修計画のダイアグラム

【改修前の課題】

改修前はブース数不足により待ち行列が発生し、屋根の老朽化により雨漏りが発生していた。また、外気に触れ、お客様から寒いとの意見が寄せられていた（図4、5）。



図4 改修前の混雑状況



図5 改修前の写真



【要望の抽出と対策】

上記課題と要望を踏まえ、当社の設計要領を考慮したうえで各課題の対策を工事に反映させた（図6～12）。また、アロマディフューザーと音響装置を設置することで、音楽と香りのあるトイレ空間とした（図13、14）。更に、清掃員にとっても快適なトイレ空間とするため、バックヤードへの鏡、給湯器、冷暖房の設置等を実施した。

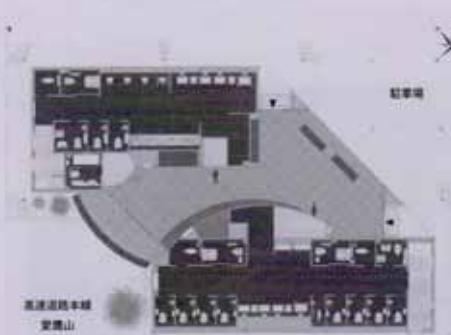


図6 上り線平面図(下り線は左右反転)

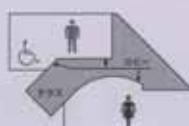


図7 各トイレへの動線
<1方向に進む明快な動線>

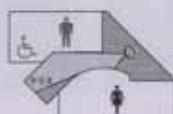


図8 ロビーからの視線の抜け
<奥に視線が抜けける空間構成>



図 9 上り線ロビー
(石調の色彩計画)



図 10 上り線テラス
(富士山の溶岩石を使用)



図 11 下り線ロビー
(木調の色彩計画)



図 12 下り線テラス
(駿河湾に臨むテラス)



図 13 アロマディフューザー^①
(ミントとレモンの香り)



図 14 音響装置
(BGMのある空間)

誤誘導対策として、動線上の視認性の高いロビー床面にピクトサインを設置した（図 15）。臭気対策として、消臭効果のある塗料（ホタテ貝殻のリサイクル材料）をロビー壁面とトイレ内壁の一部に採用した（図 16）。また、ドライバーが多いエリア特性を踏まえ、洗髪洗面台を設置した（図 17）。更に、バス到着時にお客さまが極値的に増加する高速道路のトイレの特性を踏まえ、お客様に空きブースを伝達する混雑対策を実施した（図 18）。一方、お客様がほぼいない時間帯もあるため、閑散時の利用が特定のブースに偏らないよう、利用を分散させる視線誘導サインを設置した（図 19）。



図 15 床面のピクトサイン



図 16 消臭塗料



図 17 洗髪洗面台



図 18 利用中ランプと
利用案内表示板



図 19 通路奥に意識を誘導し、奥のブースの
利用を促す視線誘導サイン

【リニューアルオープン後の課題:待つ位置の計画】

リニューアルオープン後には、お客さまからお褒めの言葉が寄せられた。また、twitterでは、改修を好意的に捉えたつぶやきが多数投稿された。一方、改修後約1年が経過し、当初想定していなかった課題を見出しができたので以下に記す。

設計時に、改修後の待ち行列の発生を想定していなかったため、お客さまにどこでどのように待ってもらうかが不明確な空間となっている。そのため、一旦待ち行列が発生すると、トイレ内の左右の分岐先にそれぞれ待ち行列が発生し（図20）、行列が伸びるにつれて中央にある洗面エリアに人溜まりができるてしまう。このような状況は、後から来たお客さまに順番を抜かされたり、トイレから出るお客さまや洗面台を利用するお客さまと動線が交錯する状況を誘発する可能性がある。また、利用案内表示板の設置位置について、お客さまにブースの空き情報を提供するタイミングとお客さまが経路を選択するタイミングにずれがあるため、効果的な運用ができていない状況である。これらの課題を解消するために現在、東京工業大学大学院大野研究室と共同で待ち行動の分析を進めている。今後、待ち行動の分析結果を踏まえ、改善策を検証していく予定である。

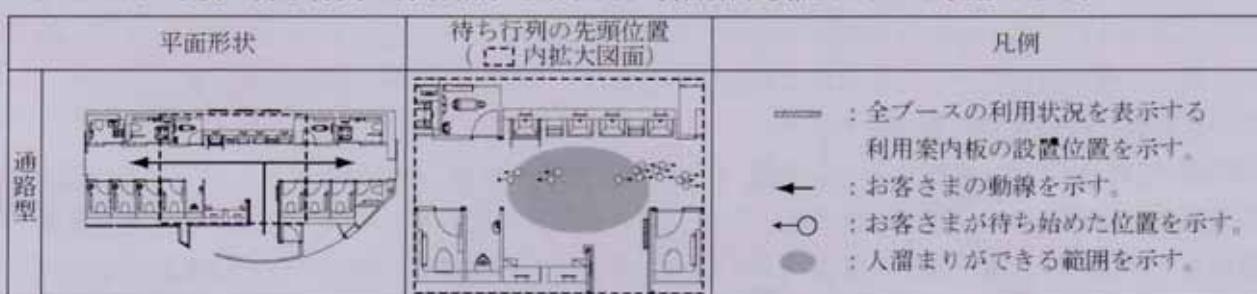


図20 行列発生時にお客さまが待ち始める位置

【おわりに】

トイレの利用は人間の生理的欲求を起因とし、トイレは人間の心理・行動と密接に関わる空間である。そして、誰もが利用する身近な空間であるため、高速道路休憩施設のトイレには日々様々な意見が寄せられる。その中には、お客さまから意見を頂いて初めて気付く問題点も多く含まれ、トイレは改善策の検討が尽きない大変興味深い空間である。今後もトイレ協会の皆様に定期的に取り組み内容を報告できるよう、より快適なトイレ空間を実現するための検討を続けていきたい。最後に、このような貴重な執筆の機会をくださったトイレ協会事務局の皆様方に感謝の意を記して本稿の終わりとする。

【筆者プロフィール】 氏名：伊藤佑治

所属：中日本高速道路株式会社 東京支社 富士保全・サービスセンター(2011.4～)

受賞歴：総合報道OOH賞2008優秀賞、2009年度日本建築学会設計競技東海支部入選、東海地区卒業設展2009山崎亮賞、第28回グッドトイレ選奨、第29回グッドトイレ入選他。

研究分野：建築空間の内外関係および建築家の言説の研究。現在は、東京工業大学大学院博士後期課程大野研究室に所属し、トイレの待ち行動について研究している(2013.4～)。

みんなにうれしい！「まちかどトイレ」設置

私たちにうれしい！初めての市民活動大賞受賞！

「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員長 竹中 晴美



みんなにやさしい
トイレ会議実行委員会

● 行政・専門家と手を組んで、使い勝手の基本を提言

「トイレ活動って、実際には何しているの？」たまに招かれるトイレ講演では「竹中さんは熱心でいいけどね、自分たちはとても・・・」とお茶を濁される。長い間、トイレに関わっていても、個人的な趣味のボランティア活動のように思われていた。だから共感は得られても、なかなか関心が広がらない。「トイレは、行政のやることでしょう？」本当は、私たち使用者側にとっても大切な問題であるのに、何故か他人事と思われる。私にとって、それが長年越えられない大きな壁でした。

3年前、行政・専門家・私たちトイレ会議、3つの視点で取り組む「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会という組織を立ち上げたのも、そんな想いから。公衆トイレの現状を伝える実態調査をしながら、年に一度、専門家から学ぶ「トイレシンポジウム」を開催。学ぶだけでは進展しない問題点を行政と話し合い、「使い勝手の基本マニュアル」等を提言。昨年度から長崎市内の老朽化公衆トイレの改装提案と、改装における「使い勝手の基本マニュアル」が取り入れられたことは大きな進展でした。基本マニュアルといつても大げなことではありません。例えば洗面所の横にはバック掛け用フック、女性トイレの全身鏡、男子トイレのベビーキープ、多目的トイレには必須の荷物置き&フック。緊急ブザーは上下2か所・など使用者にやさしい視点です。今後は、高齢化社会を視点に、大人の介護用ベッドを提言したいのですが、まだまだ基本マニュアルの段階です。でもその基本のステップが使用者にとって、本当に大事なポイントだと思います。つまりお金ではなく、気持ちをかけて欲しいと思います。

● 2014年2月 改装された長崎市民会館裏公衆トイレ



提言が取り入れられたトイレとしては3ヶ所目。観光客が名所の近くでありながら老朽化、汚れ、臭いがひどく、特に女性たちに敬遠されていたワーストトイレひとつでした。

改装されたトイレは、使用者が劇的に増加！また身体の不自由な方々が、車を横付けして用を足せる清潔なトイレとしても評判です。

● 出先のトイレの安心感であり、おもてなしの基本、「まちかどトイレ」設置！

トイレだけでもどうぞ！と提案する「まちかどトイレ」設置を思い立ったのは、お年寄りの方々や、観光客が気軽に使える「まちかどトイレ」が少ないこと。私たちメンバーは、アソコとココ、ソコという風に使えるトイレを知っている。しかし普通の方が思いつくのはデパート、コンビニ。銀行、ドラッグストアは使えない。じゃあどうするか、行政が設置するとなると、土地の交渉からなので時間がかかる、それではイザというときに間に合わない！？

●2013年6月 6カ国語で表示！

まちかどトイレ 第1号！

“レストラン” きっちんせいじ “

第1号は、長崎市の繁華街に比較的近く、電車の形の店舗で親しまれているレストラン「きっちんせいじ」。改装工事等の交渉がスムーズに進んだのは、オーナーご夫婦がトイレに関心を持たれ、トイレがおもてなしの基本であるということを認識されていたことです。それでもお互いにプラスにならなければ「まちかどトイレ」を継続していくことは難しいと思います。もうすぐ1周年を迎える利用者は順調です。「ちょっと出してね貯金箱」にも少しづつ「ありがとうございますの気持ち」が入っています。



まちかどトイレ第1号「きっちんせいじ」

● 活動資金により段差をなくし洋式に改装



●2014年4月「まちかどトイレ」第2号カフェ “チェントアニ”

第2号は、今年3月末、普段着で行けるデパートが閉店、気軽に使えるトイレがなくなってしまった長崎市新大工町のカフェに設置。利用者の年齢層が幅広く、入口が国道側&商店街の2か所あり、トイレがお洒落で広いことも条件にぴったりでした。改装にあたっては、段差をなくし便器も一新、設備関連も充実させました。



第2号カフェ「チェントアニ」



ペーパーBOXも考案



第2号の紹介記事

●2014年5月「まちかどトイレ」第3号 島原市「まちの寄り処 森岳」

今年5月初旬に設置の第3号は、島原市森岳商店街。島原市最古の古民家「まちの寄り処 森岳」は、改装の必要がない充実した設備も、うれしいお話をしました。店舗自体が由緒ある町屋で、観光客も多いので、「まちかどトイレ」としての役割は充分果たせます。今回のように、私たちの活動を新聞やテレビで知り「うちもぜひ使って下さい！」と支援してくださる店舗が、もっと増えて「まちかどトイレ」が、県下各地に広がることがひとつの夢なのですが・・・。



島原市のまちかどトイレ第3号
「森の寄り処」



長崎新聞の紹介記事

● 2014年3月 市民投票による市民活動表彰で第1回大賞を受賞

トイレに対する関心が、もっと広がらないかなあと思っていた矢先、大きな励みになるような賞を行政から頂きました！

ボランティアや、まちづくりに取り組む市民活動団体を表彰する「ランタナ大賞 2013」第1回目の今年は、登録している51団体がエントリー。1次審査を通過し、なんと団体に残りました。トイレ活動への関心の少なさが悩みでしたが、実は一次審査でも市民の皆さんに高い支持を頂きました。発表当日、15分のプレゼンにこれまでの想いをいっぱい詰めたつもりです。来場者による投票形式で、私たちの実績が多くの方の共感を得たこと。これまでの取り組みが間違っていたのだと



長崎市田上市長も来席、思わず力が



光輝く受賞盾



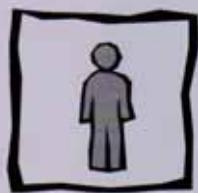
「安心・安全」取り組みに共感

受賞紹介記事



← 賞金 10万円

トイレ活動は地味で地道で、なかなか進展しないのが現実です。長年、活動をしているだけの、あくまでも素人なので尚更。今回、行政から賞を頂いたことで、自分自身はもちろん、回りの方々にも活動を認めてもらえた気がして本当にうれしく思いました。トイレの向こうには、教育や文化、マナー、人の元気、地域の元気など様々なものが見えます。トイレは本当に奥が深いと思います。こんなに長い時間、トイレにはまり続けてこられたのは、小林純子先生に会えたこと、そして私は無理やり引っ張られてきたことを文句ひとつ言わない、優しいメンバーのおかげだと思っています。(長崎市在住 個人会員)



おおいたトイレンナーレの概要と取組状況

おおいたトイレンナーレ実行委員会 事務局 佐藤 栄介

大分市は、九州の東端、東九州軸の北部で、大分県の扇状県域の要の位置にあります。

海、山、川のすべてがそろった豊かな自然に恵まれ、古代から東九州の要衝の地として栄えてきました。特に、中世戦国時代には、北部九州6国を治めた戦国大名大友宗麟公により、全国に先駆け南蛮文化が花開き、日本における西洋音楽・西洋演劇発祥の地と言われています。

おおいたトイレンナーレは、平成27年夏に大分市の中心市街地のトイレを舞台に開催するアートフェスティバルです。

「トイレンナーレ」とは、3年に一度開催されるアートフェスティバルを指すイタリア語「トリエンナーレ」とまちなかの空間に欠かせない「トイレ」を組み合わせた造語で、大分市オリジナルのイベントです。（商標登録第5622407号）

「トイレンナーレ」により、キレイなだけでなく、「美しい」トイレ、「面白い」トイレをまちなかにたくさん作ることで、同時期に新規開業、開館するJR大分駅ビル、大分県立美術館と連動し、大分の街を訪れるお客様に、驚きと、喜びと、感動を提供します。

トイレとトリエンナーレをもじったこのイベントは、早くも海外からも注目されています。

現在、公園のトイレに設置したアート作品（パーク・アートトイレ）1点、店舗・施設のトイレに設置したアート作品（ショップ・アートトイレ）3点が完成し、プレ公開しています。

本開催期間となる平成27年夏に向けて、今後、約10件のアート作品を制作予定です。本開催期間中は、トイレアート作品を巡ると共に大分の文化と食に触れる解説ツアーや、トイレアートパフォーマンスなどのイベントも予定しています。

今後、正式な開催概要是平成26年夏に発表予定ですが、おおいたトイレンナーレのさまざまな取組みを通して、「アートを活かしたまちづくり」を多くの市民の皆様と一緒に盛り上げて参ります。

これまでの取組状況としましては、平成25年度から事業に着手し、平成27年のアートフェスティバル開催に向けた基本計画を検討し、平成25年10月には、おおいたトイレンナーレ実行委員会を設立しました。

そして、平成25年度には、公園のトイレを利用して制作する「ショップ・アートトイレ」1件と、店舗・施設のトイレに設置する「ショップ・アートトイレ」作品3件を制作しました。



①北風と太陽～考えたってしょうがないじゃん～

（川崎泰史 作）

ガレリア竹町内のビルの2階の廊下からトイレの個室内までに作品を展示。廊下に設置されたシンボル的な彫刻は、イソップ物語の「北風と太陽」をモチーフにしており、トイレを楽しく演出しています。

WAZAWAZA2階(大分市中央町三丁目5-16)

②色、カタチ、生命／letter～醉狂～

(SUIKO 作)

2つのトイレにそれぞれ合わせ鏡を設置することで、壁面に描いた絵がどこまでも続くように見えます。ひとつには色彩豊かな花園が、もうひとつには作者のメッセージが込められた文字が描かれ、それぞれが全く異なる空間になっています。

the bridge(大分市中央町三丁目3-19)



③UTTM(Used Toys Toilet Museum)

(藤浩志 作)

トイレを美術館に見立て、使われなくなったおもちゃを素材にした作品を展示。今後は、市民が不要になったおもちゃを持参し、展示されている作品のおもちゃと交換をする市民参加型のワークショップなどを通じて、作品が変化し続ける予定です。

iichiko総合文化センター1階

(大分市高砂町2-33)



④トイレのラクガキ

(トーチカ 作)トイレの外壁に半透明のガラス(高さ3メートル、幅5メートル)を設置。日中は鏡のように見える壁面ですが、夜になるとペンライトでイラストや文字を描く様子が浮かび上がります。映像には、約140人の市民が出演しています。

若草公園(大分市中央町二丁目)点灯時間日没～午前0時

この事業は、まちのなかを美術館にして、アート作品を展示することで、トイレとアートを媒介にして、「大分」という場所を、観光客の方々に体験して、知ってもらうアートフェスティバルを開催することで、人間だれにとっても欠かせない「トイレ」という空間を舞台にして、これまた人間だれにとっても欠かせない「文化・芸術」を地方から発信する新しいモデルを目指す取組です。平成27年夏には、おおいたトイレナーレを体験しに、大分市にぜひお越しください。

(大分市商工農政部商工労政課アートを活かしたまちづくり担当 e-mail toilennale@city.oita.jp)

～トイレ清掃の湿式清掃から乾式清掃への転換の取組～



中日本ハイウェイ・メンテナンス東名株式会社

工務部 環境整備課 石川 清美

当社は東名・新東名高速道路などを中心に東京・神奈川・静岡各都県の高速道路の補修・清掃・雪氷作業・災害対応・事故復旧等の維持管理業務を行っています。サービスエリア・パーキングエリア（以下 SA・PA）の清掃は維持管理業務の一部となります。東名高速道路は日本の大動脈であり、その中に位置する SA・PA のトイレを良好な状態で維持し、安心・安全・快適な空間を創り出すため常に清掃方法の工夫や改善をしています。

お客様が気持ちよくトイレをご利用になることは快適な運転＝事故防止にも繋がると考えています。

高速道路は各種交通手段の中でも 24 時間 365 日利用され、お客様も多種多様に渡る特殊な環境下にあります。

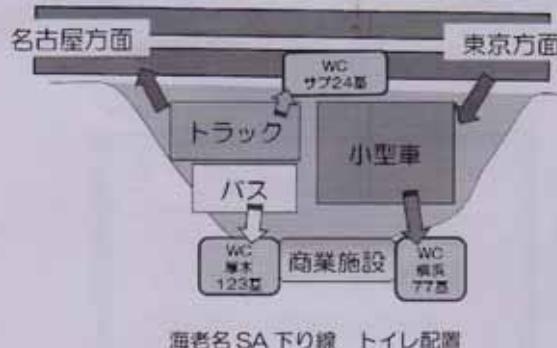
中でも海老名 SA においては混雑時期には商業施設の入館者数が一日に約 6 万人にのぼり、その数は都心の大型商業施設規模となります。

元来、トイレ自体は利益を生まない設備です。商業施設を含めた各施設やオフィスビル等でも売場面積等のテナント部分の面積の確保が優先されるため混雑が生じるにも関わらず便器数の増加は困難となっています。

しかし近年では少ない面積の中でもデザインやコンセプトが重要視されたトイレが話題にあがることも多く、SA・PA でも同様に狭小化の中で快適性とデザイン性を融合させる取組が実施される等、トイレそのものが注目されています。

～トイレの数と配置について考える～

海老名 SA におけるトイレの配置は横浜側・厚木側・サブトイレと 3箇所に区分され、それぞれ小型車・バス・トラックを中心に駐車場区分に応じて設置されています。その中で大型バス駐車場寄りのトイレは特に短時間に多人数の利用が集中するためトイレ数が多く作られている等の工夫がなされています。



	横浜側	厚木側	サブ
男小	17	36	9
男大	8	18	5
女小	48	65	10
(子小)	(2)	(2)	0
多目的	2	2	0
小計	77	123	24
合計			224基

また、夏休み・年末年始・GW の混雑時期は毎日各エリアのスタッフが混雑状況を記録し次の混雑期におけるトイレ渋滞の緩和対策を検討するよう、PDCAを実行しています。

～湿式清掃から乾式清掃への変化～

湿式清掃と乾式清掃の大きな違いは床に水を多量に流して清掃するか否かです。一般に言われる湿式清掃のデメリットとして挙げられているのは右記のとおりですが、SA 特有の問題もあります。

菌が繁殖しやすい

拭き取りに時間がかかる

金属部・木製部分の腐食

排水溝からの臭いの発生

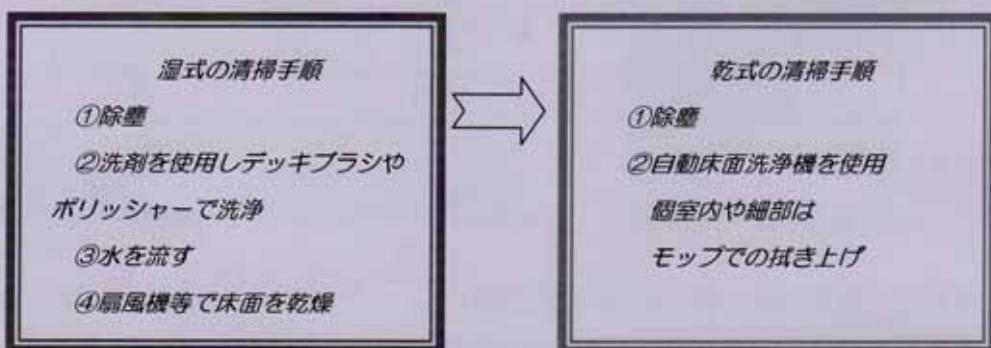


それはトイレの渋滞緩和対策です。トイレ渋滞の緩和に大きく貢献したのは乾式清掃への転換による清掃時間の短縮です。

小さいトイレなら機械をいれるより人力に頼った方が効率も良い場合がありますが、海老名 SA のようにトイレ数が多く広い面積を持っている施設ではそうした作業は大変時間がかかるため湿式清掃の実施時より床面洗浄機の導入を行っていました。

～清掃方法見直しのために～

トイレ渋滞の緩和をはかるためには清掃区画を最小限に留める必要もありました。従来の方法だと、区画している部分のトイレをお客様は利用できない上に、床面の清掃をしている間は便器等の他の部分の清掃を同時進行で行うこともできませんでした。



SA・PA の清掃で難しいところは 24 時間 365 日お客様が利用されている中で清掃作業を実施することです。

特に近年はお客様の利用を優先していることから設計上は省エネや清掃のために約半分を閉鎖して清掃が実施できる構造にしていますが、時期や時間帯によっては閉鎖しての清掃が困難な場合もあります。

そこで、海老名 SA では平成 21 年 7 月から湿式清掃をやめ、乾式清掃に切り替えることにしました。乾式清掃の導入がされていなければお客様が利用出来ない時間が長くなり CS の向上を妨げていたと思われます。また乾式清掃の導入に加え、トイレ自体も工夫され洗練されたものに、なりウォシュレットや除菌クリーナー泡状水石鹼の設置など、ホテルやデパート並の設備を備えたことも CS 向上に繋がったものと思われます。

こうしたトイレの構造や清掃方法の変革に戸惑っていた当社にとって専門会社によるトイレ診断の実施は現在の東名高速のトイレ清掃に関して大きな影響力を与えたといえます。トイレ診断実施以前も清掃品質は当社内ではある程度満足していましたが、鏡や機械を使用して通常の視線では目が届かない部分のトイレの隅々までチェックする方法や、蓄積した汚れや臭気の元をデータで「見える化」して示すことにより清掃の方法を根本から見直す結果となりました。

トイレ診断の内容も充実したものでしたが、第三者からの客観的な指摘は会社全体で清掃品質の向上を図るために大変重要なものであることを実感しました。

～臭いの元を断つ～



KSN 戦略
K・きれい
S・清潔
**N・におわな
い**

トイレ診断士による臭気調査の結果はアンモニア濃度としては低い数値ながら人間が感じる臭いとして尿や下水系の臭いが若干感じられるという結果でした。KSN 戦略のきれい・清潔の部分は一見クリアしているように思えましたが、タイルの目地や手の届かない配管の奥の方から発生するアンモニア臭がどうしても消えずに残ってしまうという課題が残りました。臭いの対策には、まず汚れを徹底的に落とすことから始めました。

「乾式清掃」は言葉からくるイメージ通り水を使ってはいけないのでは?と思うほど聞き慣れない言葉でした。

現在では、多くの一般家庭のトイレは「乾式清掃」を実施しているのに身近に感じられなかったのも不思議な気がしています。トイレの設備自体が一般家庭並かそれ以上になっているのならお客様の要望も上がっていくのも当然だったのではないでしょうか。しかしそうして綺麗で清潔で臭わないトイレへ取組むため、湿式清掃時より多岐に渡り創意工夫がされることとなりました。

トイレの3K
K・くさい
K・汚い
K・暗い

～尿石落とし～

更なる課題は蓄積された尿石と臭いの問題でした。それらに対応するため除菌と脱臭にオゾン除菌脱臭洗浄機を、尿石汚れには天然のリモネン成分のオレンジ洗剤の導入を実施しました。

今まで清掃現場には酸性洗剤や塩素系の薬液等、使用方法を誤ってしまえば有害ガスを発生させ、腕や顔等の肌に付着したら炎症を起こしてしまう可能性のある刺激の強い洗剤を使用していました。

酸性洗剤等は洗浄効果も高く使用方法も広く普及されているため使用してきましたが、より安全で効果も期待できるものに変更したものです。実際にトイレの清掃を実施するスタッフは「清掃業務は海老名 SA が始めてです」と云う方も少なくなく、一日に何度も掃除をすることを考慮すると、より安全性の高い洗剤等を使用することは重要なことだと考えています。

清掃が困難である便器・洗面といった陶器部分については天然のオレンジから抽出されたリモネン成分を主体とした中性洗剤を使用しています。小便器の目皿など、汚れがつきやすく落ちにくい部分に関しては希釈した洗剤に浸け置きすることで擦り洗いの大幅な短縮を行っています。

また使用を継続していくと陶器に光沢が出てより一層綺麗な印象を与えることができます。

床面やハンドドライヤー等のプラスチック部分・ステンレス部分の清掃には弱アルカリ性の洗剤を使用しています。

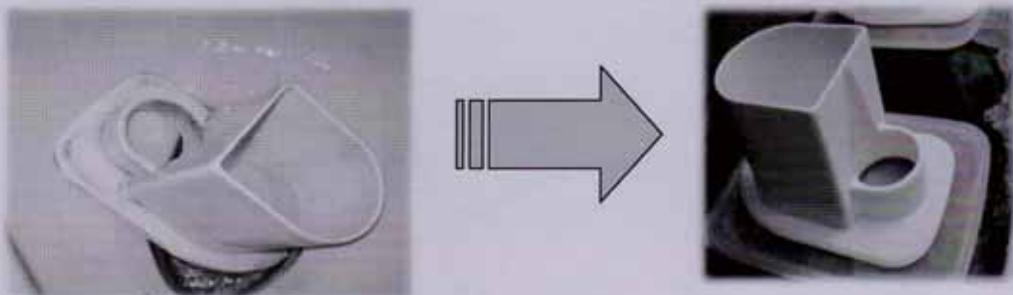
鏡・ガラス部分に関してはアルカリ性洗剤を使用しています。

この 3 種類の洗剤は何れも原液から 5 倍以上の希釈をし、汚れや洗浄方法によって希釈率をかえることで幅広い汚れに対応することができます。



トイレ診断で着目される洋式便器のリム部分や小便器リップ部は日常清掃の中でもこまめにチェックをし、蓄積させないことを徹底しました。

古い SA・PA でも蓄積した汚れを落とそうという意識を持ち、新しく改修されたところでは施設や素材を傷めず汚れを蓄積させないように清掃方法を見直しています。



※当社内での尿石付着事例(オレンジ洗剤を使用した尿石除去)

～除菌と脱臭～

蓄積した汚れを落とした後はオゾン除菌脱臭洗浄機の試験施工を実施しました。

オゾン除菌脱臭洗浄機はオゾンガスを特殊な技術で水に溶かすことによりオゾン水を生成し、洗浄水として使用します。

オゾン水自体に汚れを落とす効果はありませんが、尿中や便器に付着した一般細菌を除菌しウレアーゼ酵素を不活性化してアンモニア・尿石の付着を抑制する効果があります。

オゾン (O_3) は酸素原子が 3 個から成り立っている不安定な物質で強い酸化力を持つ一方、排水時には数分で酸素と水に戻るため環境に優しいと言われています。

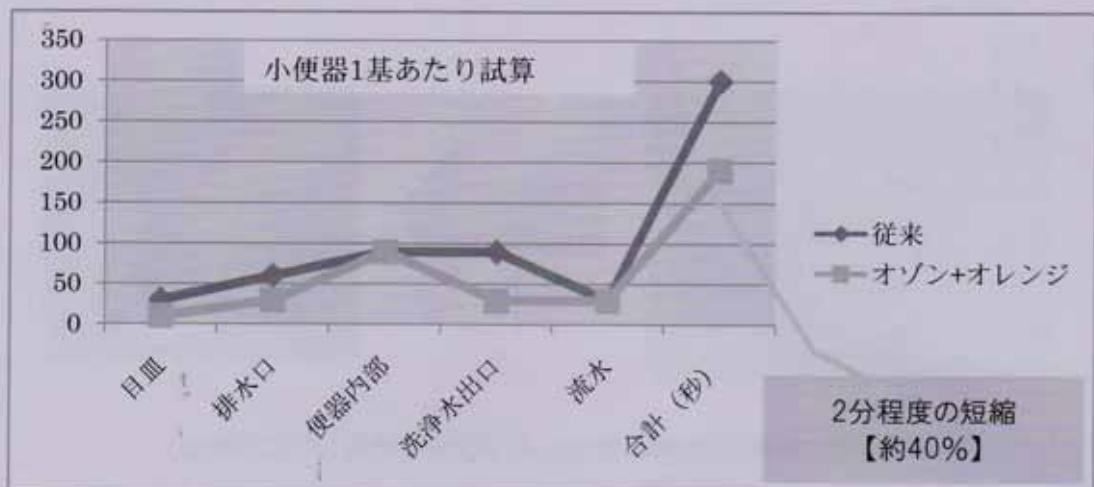
オゾン水の使用後は清掃後でも床の目地や隙間に入り込んだ尿によるアンモニア臭がありましたが臭いが感じなくなりました。個室内の嘔吐物への対策や臭いにも苦慮していましたがオゾン水を使用したところ充満した臭いも消臭され清掃も楽に行えるようになりました。

特に当社の管内でも消臭効果がわかりやすい場所に喫煙所やゴミの仮置き場・ドッグラン等があります。鼻で感じるほど臭いがきついところは消臭効果がはっきりとわかります。



～清掃方法の効率化と時間短縮～

洗剤・機械の導入を実施したことにより特別な尿石落とし用品の購入や時間も削減され、1回当たりの基本清掃における機械・材料費は 0.7% 増となるものの、労務費を含めたコストは 34% と大幅に削減される結果となりました。



その他にも湿式清掃時から使用していた自動床面洗浄機等の効率的な利用の他に小型清掃機械の積極的な導入を実施しています。



常ににお客様の目に触れていることを意識し、清掃箇所ごとに内外部からも区別がつくようタオルや手袋を色分けし、衛生に対する配慮を前面に出すことで、よりお客様が安心して利用できるように心がけています。

床→ブルー	便器→白	洗面→ピンク
マイクロクロス		鏡→ブルー

～今後の課題～

9月にもトイレ診断を実施し、利用頻度の多い便器や混雑時期中の汚れに対してはアンモニア臭やおむつ入れ等のゴミ箱の中の臭いが残るという結果となりました。

7～8月は休暇の分散化によりお盆を除く平日でもお客様が多数いらっしゃるため巡回清掃さえ難しかったという時間

今後の課題としては混雑期明けに蓄積された汚れを取るのではなく、混雑期中でも汚れが蓄積しない作業体制を取ることが出来ないだろうかと検討しています。

更に清掃方法が資材の変化により試行錯誤している中で清掃指導の徹底が大変難しく、スタッフへの負担を軽減させるために早期に清掃方法の円熟化をはかり、明示をしていきたいと考えています。

～優しいが基準～



現在、清掃スタッフは清掃だけではなくお客様サービスのためソフト面でも努力をしています。

ソフト面の強化として定期的なマナー研修や外国語研修を実施の他、サービスエリアには多くの高齢者やお身体の不自由な方が車を利用されるため、おもてなしの心を持ったお手伝いができるよう清掃スタッフだけ

でなく、社員も含めたサービス介助セミナーの実施と、毎年少人数ですがサービス介助士の資格を取得するスタッフもいます。

機械や洗剤を重点に述べてきましたがマンパワーこそが一番の柱であると切実に感じています。



2014年度理事会経過(4月～6月)

会場 (株)レンタルのニッケン会議室(東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル)

第1回理事会 4月7日(月) 17時30分～20時20分

議題

- 1 2014年度の役員新体制、役割分担
副会長の増員 山本耕平理事を副会長を選出
- 2 2013年度収支報告、2014年度収支予算案 承認
- 3 2014年度総会への取り組み
- 4 事務局連絡

入退会状況 4/1現在 総計130 問合せ状況 114件(2013年度)

第2回理事会 5月7日(水) 17時30分～19時30分

議題

- 1 2014年度総会について
- 2 出版事業について
- 3 HPについて
- 4 各研究会について
- 5 第30回全国トイレシンポジウムについて
- 6 事務局連絡

入退会状況 5/1現在 総計131名 問合せ状況 4/1以降 19件

第3回理事会 6月2日(月) 17時30分～19時35分

議題

- 1 2014年度総会報告
- 2 書籍出版事業進捗について
- 3 会員名簿作成について
- 4 協会ニュースのコンテンツについて
- 5 HPについて
- 6 各部会報告
- 7 第30回全国トイレシンポジウムについて
- 8 事務局連絡

入退会状況 総計131 問合せ状況 35件(前年比318%)

9 その他 新妻普宣会員による東京都文京区所在の浄土宗「定泉寺」からの依頼による
講演「災害時のトイレ対策」が極めて好評だった旨報告された。

トイレ学大事典（仮書名）出版企画概要

2014年度総会で決定承認された日本トイレ協会設立30周年記念事業として「トイレ学大事典」（仮書名）の刊行に向けて編集委員が懸命に取り組んでおります。その概要をご案内いたします。

▼企画趣旨

人が一生のうち20万回利用し、延べ7～11ヶ月を過ごすとも云われるトイレ。現代社会に生きる私たちはもはやトイレ無しでは生きられず、充実したトイレ体験の構築が豊かな人生につながると云っても過言ではないだろう。また日本は、高機能衛生機器（便器類等）、多機能トイレの開発・普及で世界をリードしてきた。それは日本人が伝統的に環境衛生に強い関心を持ち、快適で理想的な暮らしを日々追及してきたことの賜物であろう。

本書は、トイレや排泄を深く知り、よりよい生活環境を実現していくうえでのレファレンスブックとなるべく、日本トイレ協会の持つ人的ネットワークをフル活用し、生存に欠かせぬ身近な空間を歴史や医学、建築学、法学、経済学、心理学、哲学、教育学、社会学、デザインなど多角的な視座から徹底解剖する、初のトイレ総合事典となる。学術的に最先端の研究成果をもとにしつつも平易な表現を強く意識する。また資料写真や事例写真など図版資料を多数収録し、中高生から読める紙面づくりを目指す。

「仮書名」トイレ学大事典 「編者」日本トイレ協会 「造本体裁」B5版上製 480頁

「予定価格」9,500円 「初版印刷」2000部 「刊行時期」2014年秋 → 2015年春

「販売対象」建築／インテリア／デザイン／医療・福祉／研究者／メーカー／学校／行政／一般

「出版社」柏書房

▼構成

第I部 トイレ学事始め<第1章トイレってなに？ 第2章トイレの歴史>

第II部 排泄を科学する<第3章排泄の医学／生理学 第4章排泄の理学 第5章排泄に関わる施設と経済 第6章排泄物の化学とトイレのメンテナンス>

第III部 文化としてのトイレ<第7章トイレと民俗／習慣 第8章トイレと哲学／宗教 第9章トイレと心理学 第10章トイレと法律>

第IV部 トイレと国土とまちづくり<第11章トイレと環境 第12章トイレと都市計画／地域計画 第13章交通施設のトイレ 第14章観光・リクリエーションとトイレ 第15章災害とトイレ>

第V部 人にやさしいデザインを求めて<第16章トイレと建築学 第17章トイレノユニバーサルデザイン 第18章便器の工学とプロダクトデザイン>

第VI部 未来につなぐトイレ<第19章教育とトイレ 第20章グットトイレ選奨から 第21章素晴らしいトイレの事例 第22章子供たちの描く未来のトイレ>

参考文献、論文、インデックス

編集委員 会長 高橋志保彦

副会長 鎌田元康、小林純子、坂本菜子、山本耕平

理事 赤堀時夫、川内美彦、木内雄二、倉田丈司、寅太郎、松田芳夫、森田英樹

事務局 佐竹明雄

第30回全国トイレシンポジウム 概要

<テーマ> 学校とトイレ

<開催趣旨>

学校トイレ改善の取り組みは、1997年、日本トイレ協会主催の学校トイレフォーラムが一つの契機となった。その後文部科学省は2000年に、大規模改修工事の一環に位置づけ補助金制度を設け、2012年には、学校トイレ改善事例集を発行した。またトイレメーカー等が中心となってつくられている「学校トイレ研究会」が研究の成果や動向を毎年小冊子にまとめ必要性を広めた。このような動きのなかでトイレ改善の必要性は、その重要さや意味の理解は広まったものの、公立の小中学校のトイレ改修が進まないと自治体からの声も多い。また、この間の3回の大震災から、学校トイレの重要性を学んだ。取り組みが15年を経た現在、課題はないか、トイレ改善の先行事例はどう取り組んだか、災害による避難所としての視点での学校トイレづくり等を考えることを目的とする。

<開催概要>

期日 2014年11月15日(土)

会場 東京都世田谷区立 世田谷中学校体育館・多目的室

共催 東京都世田谷区 世田谷区教育委員会 日本トイレ協会 ①

後援(予定) 順不同

文部科学省、国土交通省観光庁、一般社団法人日本建築学会、公益法人日本建築家協会

都市デザイン会議、一般社団法人日本医療福祉建築協会、一般社団法人日本医療福祉設備協会

公益社団法人国際観光施設協会、医療福祉エビデンス協会、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会、NPO法人給排水設備研究会、一般財団法人自然公園財団、全国管工事業協同組合連合会

協賛(予定) 順不同

TOTO株式会社、株式会社LIXIL、一般社団法人日本衛生機器設備工業会

日野興業株式会社、株式会社シミズオクト、中日本ハイウェイメンテナンス中央株式会社

株式会社アメニティ、日本カルミック株式会社、湘南ステーションビル株式会社、アメニティ

参加費 無料 但し資料代1,000円

事務局 日本トイレ協会 第30回全国トイレシンポジウム実行委員会

連絡所 設計事務所コゲンドラ 03-5805-3556

世田谷区教育委員会

連絡所 世田谷区教育委員会事務局施設課 03-5432-2663

日本トイレ協会

〒112-0003

JAPAN TOILET ASSOCIATION

東京都文京区春日1-5-3 春日タウンホーム 1F~A

URL:<http://www.toilet-kyoukai.jp>

Tel/Fax 03-5844-6123

e-mail: jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp